

年度 2009 学期 前期	曜日・校時 水曜日・3校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)	教養特別講義 / (Colloquium)		
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 322・中部講堂	
対象学生(クラス等) M11 P18	科目分類 共通基礎科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 富塚 明/研究室:環境科学部/TEL:819-2767 /オフィスアワー:木曜 12:00-13:00 林秀千人/Eメールアドレス:hidecho@nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2516/オフィスアワー:月曜日 16:00 ~18:00 山口純哉/Eメールアドレス:junya@nagasaki-u.ac.jp/研究室:経済学部/TEL:820-6326 /オフィスアワー:水曜 17:00-18:00 亀田和彦/Eメールアドレス:kameyan@nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部/TEL:819- /オフィスアワー:金5校時			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」2回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。さらに、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。			
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 平和: イラク戦争、防衛庁の「省」への移行、憲法九条を変えようとする動き、北朝鮮の核実験など 21 世紀にはいって平和の問題がこれまで以上に問われるようになっていく。長崎県は原爆被爆県であると同時に全国有数の米軍・自衛隊基地を抱えている県でもある。核兵器と基地問題に焦点を当てて、長崎県のおかれている現状を考える。 第1回 長崎原爆被害の実相 第2回 核兵器をめぐる諸問題 第3回 米戦略と長崎県の軍事基地 安全・安心:安全について、概要を講義する。自ら積極的に安全を行い、安心できる生活を過ごすために、日頃か何をするか、どのようにすべきか考え、地域や個人での備え、助け合いの大切さを学ぶ。 長崎: 長崎の地域経済・社会の特徴を統計資料等を用いて概観したうえで、観光、まちづくりや文化といった視点から長崎の今を受講生とともに検討する。 海洋と文化:長崎に住む私たちが長崎の海の恵みと、どう関わってきたのかに注目します。海に囲まれた長崎は、昔から、「海の幸」とともに暮らしてきました。海の恵みとの共生を、水産業に注目しながら振り返り、展望を考えます。 第1回 4月15日 平 和 富塚 明 (環境科学部) 第2回 4月22日 特別講演Ⅰ 片峰 茂 (学 長) 第3回 5月13日 平 和 富塚 明 (環境科学部) 第4回 5月20日 平 和 富塚 明 (環境科学部) 第5回 5月27日 安全・安心 林秀千人 (工学部) 第6回 6月 3日 安全・安心 林秀千人 (工学部) 第7回 6月10日 長 崎 山口純哉 (経済学部) 第8回 6月17日 長 崎 山口純哉 (経済学部) 第9回 6月24日 長 崎 山口純哉 (経済学部) 第10回 7月 1日 特別講演Ⅱ 水田善次郎(名誉教授) 第11回 7月 8日 特別講演Ⅲ 古川 淳(名誉教授) 第12回 7月15日 海洋と文化 亀田和彦(水産学部) 第13回 7月22日 海洋と文化 亀田和彦(水産学部) 第14回 7月29日 海洋と文化 亀田和彦(水産学部) 第15回 8月 5日 特別講演Ⅳ 橋本健夫 (教学担当理事)			

キーワード	<p>平和:原爆被害, 核兵器, 基地, 安保条約</p> <p>安全・安心:安全・安心</p> <p>長崎:長崎、文化、観光、まちづくり</p> <p>海洋と文化:船、水産業、海洋環境</p>
教科書・教材・参考書	<p>平和:テキストは使用しない。プリントを適宜配付する。</p> <p>安全・安心:教科書は使用しない。資料を配布する。</p> <p>長崎:教員の作成した資料を用いるため、特に指定しない。</p> <p>海洋と文化:プリント等を適宜配付する。</p>
成績評価の方法・基準等	<p>長崎24点、安全・安心16点、平和24点、海洋と文化24点、特別講演12点の配点とする。</p> <p>長崎:レポート(100%、8点×3回)</p> <p>安全・安心:レポート16点</p> <p>平和:毎回の講義のまとめ(100%)</p> <p>海洋と文化:毎回の講義のまとめ(レポートとして提出:70%)と授業への積極的な参加の状況(30%)</p>
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	